

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

25.

第七幕 第2場

1522年 マンレサにて

登場人物： 巡礼者 イニゴ・デ・ロヨラ

【語り】マンレサの洞窟でイニゴが初め持っていた平和と喜びは、恐ろしい疑悩の嵐と変わり、そこから抜け出したい一心で始めた断食は一週間に及び、イニゴは心身ともに憔悴しきってしまいました。日曜日に聴罪司祭から、そんな無茶な断食はすぐ止めるよう命じられ、イニゴはまだ余力があると思いながらも、従いました。日曜日、月曜日は疑悩から解き放たれたように感じていましたが、火曜日になると……

【黒衣の使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ 罪びとよ 断食しようが 祈ろうが
おまえの罪は 消えないぞ 無限に続く 数珠のごと
すべての罪を 見せてやる 全部ふたたび 懺悔しな

イニゴ： （頭を抱えて） ああ、もうたまらない。神に仕えるのはこんなに苦しいものなのか？モンセラットの告白ですべて赦されたはずなのに。こんな生活はもうこりごりだ。

【黒衣の使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ いい子だね やっとのことで 分かったか
こんな生活 所詮無理 直ちにさっさと止めちまえ

イニゴ： 何！この生活をやめろだと？ ロヨラで来る日も来る日も考え続け、神もお喜びくださると確信した道を、苦しいからと言ってやめさせようとするのか？サタン、退け！ やっと今正体がわかった！！まことしやかに罪を悔やませるように見せかけながら、心を乱し、悲嘆にくれさせ、結局初志を忘れさせ、神への奉獻をやめさせようとするのか？そんな手に金輪際乗るものか！ *5

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ ついに気付きぬ 汝が仇敵の巧みなる罫
御神より 引き離さんとて 過ぎし日の 過ち使い
慈悲深き 父なる神の 赦しをば 疑わせつつ
身心を 責めさいなみて 志 捨てさせんとす

イニゴ： そうだった。この数か月、自分の罪ばかりを見つめて、慈悲深い神に心を上げることをしなかった。敵の脅しにばかり気をとられて、敵を相手に孤軍奮闘していた。長い間続いた悪夢から今やっと目覚めた思いだ。肩に重くのしかかっていたマントを、主が取り除いてくださったんだ。すべては慈悲深い神からのお恵みなのだ。なぜこの長いトンネルの中で、神の憐れみを信ずることを忘れていたのだろう。

【白衣の天使の合唱】

♪ああイニゴ よくわきまえよ 年経たる 蛇なる悪魔
如何にして 神の子たちの 頼り頼む 心捨てさせ
絶望と悲嘆にくれて 志 捨てさせんとすを

イニゴ： 一見良い勧めのように見えたので、罪を責め立てる声に耳を貸したが、神の慈悲への信頼を失い、すんでのことに初志を貫徹する意志さえ捨てるところだった。お前の悪たくみは、お前が誘う先の悲惨な結果に表れてくる。*6

【黒衣の使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ こちら見よ 美しいだろ 綺麗だろ
人生をもっと 楽しめよ 真面目ばかりが 能じゃない

イニゴ： 大事なことに気づき、お前の奸計を見破り始めると、また注意を逸らせようとするのか？ ああ、またあの眼がたくさんある蛇のようなものが現れた。
今日はいつもほど、きれいでも魅惑的でもない。悪霊の正体を見抜いた今、色あせて見えるということは、これもお前の仕業だったのだな？
しっしっ、あっちへ行け。お前などもう相手にするものか！

.....

<かげの声＝註> マンレサにおいて、イニゴは靈的生活における善霊と悪霊の影響を身をもって体験し、その特徴を知ることによって両者を識別することを学びました。のちにほかの人々にも役に立つよう双方の特徴をまとめ、『靈操』の「靈の識別の規定」の中で識別の仕方を述べています。
マンレサにおける 11 か月は、イグナチオ自身の靈操の時であったといえます。

*5 イグナチオは、靈操「第一週の靈の識別の規定」の中で次のように述べています。
第二則 ひたすら罪を清め、わが主なる神への奉仕の道にますます進んでいる人の場合、悪霊の特徴は、人をさいなみ、悲しませ、障害を置いたりして、進歩しないように根拠のない理屈で心を乱すことである。他方、善霊の特徴は人を励まし、力づけ、慰めと涙、靈感と安らぎを与えて、善行の道に一層進歩できるよう万事をやさしくし、あらゆる妨げを取り除くことである。〔靈操 315〕

*6 イグナチオは、靈操「第二週の靈の識別の規定」の中で次のように述べています。
第五則 考えの経路によく注意しなければならない。最初と中間と最後が全部良いもので、まったく善だけを求めるものなら、それは善天使のしるしである。しかし、霊がもたらした考えの経路において、最後に霊が悪いこと、横道にそらすこと、あるいは、前に靈魂がしようとしたことほどには良くないことをもたらすなら、また靈魂を弱め、不安にさせ、乱し、以前もっていた平和と安らぎと静けさを奪ってしまうなら、これは、その考えが私たちの靈的な益と永遠の救いの敵である悪霊から来ることを明らかに示している。〔靈操 333〕